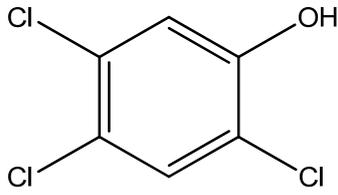


7	CAS 番号 : 95-95-4	物質名 : 2,4,5-トリクロロフェノール
化審法官報公示整理番号 : 3-931 (トリクロロフェノール (又はナトリウム塩)) 化管法政令番号 : 分子式 : C ₆ H ₃ Cl ₃ O 分子量 : 197.45		
		構造式 : 

1. 物質に関する基本的事項

本物質の水溶解度は 1×10^3 mg/1,000g(25°C) で、分配係数 (1-オクタノール/水) (log Kow) は 3.72、蒸気圧は 0.02mmHg(=2.7Pa) (25°C) である。生物分解性 (好氣的分解) は BOD 分解率で 0% である。また、加水分解性による半減期は 8×10^6 年超であった。

本物質の主な用途は、医薬・農薬・染料・顔料・写真薬・液晶材料中間体とされている。平成 22 年度から平成 25 年度における製造・輸入量は、届出事業者が 2 社以下のため、公表されていない。

2. 曝露評価

化審法第一種指定化学物質ではないため、排出量及び移動量は得られなかった。Mackay-Type Level III Fugacity Model により媒体別分配割合の予測を行った結果、大気、水域、土壤に等量排出された場合、土壤に分配される割合が多かった。

水生生物に対する曝露を示す予測環境中濃度 (PEC) は、公共用水域の淡水域では 0.007 µg/L 未満程度、同海水域では 0.007 µg/L 未満程度となった。

3. 生態リスクの初期評価

急性毒性値は、藻類では緑藻類 *Desmodesmus subspicatus* の生長阻害における 72 時間 EC₅₀ 1,200 µg/L、甲殻類ではヨコエビ属 *Gammarus pulex* の 48 時間 LC₅₀ 390 µg/L、魚類ではニジマス *Oncorhynchus mykiss* の 96 時間 LC₅₀ 260 µg/L、その他の生物ではイボウキクサ *Lemna gibba* の生長阻害における 7 日間 EC₅₀ 415 µg/L が信頼できる知見として得られたため、アセスメント係数 100 を適用し、急性毒性値に基づく予測無影響濃度 (PNEC) 2.6 µg/L が得られた。

慢性毒性値は、藻類では緑藻類 *Pseudokirchneriella subcapitata* の生長阻害における 72 時間 NOEC 530 µg/L、甲殻類ではオオミジンコ *Daphnia magna* の繁殖阻害における 21 日間 NOEC 110 µg/L、魚類ではニジマス *Oncorhynchus mykiss* の死亡における 90 日間 NOEC 108 µg/L が信頼できる知見として得られたため、アセスメント係数 10 を適用し、慢性毒性値に基づく予測無影響濃度 (PNEC) 10 µg/L が得られた。

本物質の PNEC は、魚類の急性毒性値から得られた 2.6 µg/L を採用した。

PEC/PNEC 比は淡水域、海水域ともに 0.003 未満となるため、現時点では作業の必要はないと考えられる。

有害性評価 (PNEC の根拠)			アセスメント係数	予測無影響濃度 PNEC (µg/L)	曝露評価		PEC/PNEC 比	PEC/PNEC 比による判定	評価結果
生物種	急性・慢性の別	エンドポイント			水域	予測環境中濃度 PEC (µg/L)			
魚類 ニジマス	急性	LC ₅₀ 死亡	100	2.6	淡水	<0.007	<0.003	○	○
					海水	<0.007	<0.003		

4. 結論

	結論	判定
生態リスク	現時点では作業は必要ないと考えられる。	○

[リスクの判定] ○：現時点では作業は必要ない、▲：情報収集に努める必要がある、■：詳細な評価を行う候補、×：現時点ではリスクの判定はできない

(○)：情報収集等を行う必要性は低いと考えられる、(▲)：情報収集等の必要があると考えられる、(-)：評価の対象外、あるいは評価を実施しなかった場合を示す